

10月13日 麻酔の日になんで

● 麻酔科学の夜明け

1804年10月13日、華岡青洲は、曼荼羅華(朝鮮アサガオ)を主成分とする「通仙散」を用い、世界ではじめて全身麻酔下に乳がん摘出手術を成功させました。

日本麻酔科学会はこの偉業をたたえて10月13日を「麻酔の日」としたのです。それまでは、麻酔はどうしていたのでしょうか？



▲第100回日本外科学会総会を記念して発行された切手：華岡青洲と曼荼羅華)

● 麻酔の夜明け前 マンドレイクの根

その昔、手術には常に痛みという暗闇がつきまとい、患者を苦しめました。そんな頃、使われていたもののひとつに、「マンドレイクの根」というものがあります。15世紀、ギリシア、ローマ、アラビアなどの医者が麻酔薬として時々用いていたとされています。マンドレイクの根を地面から引き抜くものは、その植物が発する悲鳴によって殺されると信じられており、犬に引き抜かせるべきだと言われていました。

面白いことに、マンドレイクの日本名は、曼陀羅華(朝鮮アサガオ)、華岡青洲が作ったあの通仙散の原料なのです。

皆さんのよく知っている小説にも登場しますよ。「マンドレイクはたいいていの解毒剤の主成分になります。しかし、危険な面もあります。誰かその理由が言える人は？」

ハーマイオニーの手が勢い良く上がった拍子に、危うくハリーのメガネを引っかけそうになった。「マンドレイクの泣き声はそれを聞いた者にとって命取りになります」

もう、おわかりですね？ J.K ローリング作ハリー・ポッターと秘密の部屋、〈静山社〉より引用しました。



▲マンドレイクの根を犬に引き抜かせているところ

参考文献：切手と絵で見る医学の歴史。古川 明：メディカルトリビューン 1999

やまばとギャラリー

三重病院外来棟から南病棟(5病棟)に行く長い廊下の窓際に、患者さまたちの作品が展示してあります。季節感あふれる手作りの作品に心が和みます。ご来院の際には、是非足を延ばしてご覧ください。

5病棟の患者さまの作品

暑い夏も終わって秋がやってきました。今回は、**落ち葉**を使ってリースを作ってみました。スケールの大きさを感じる大胆な作品…繊細な作品…思わず笑ってしまう作品…それぞれが、作者に似ているように思います!?

材料はどこにでもある新聞紙や広告、包装紙です。今回の作品に使用している《新聞紙で作ったこより》は、5病棟のある患者様が毎日せつせと製作に励んだものです。新聞紙のみで長いこよりを作ることができます。接着剤等は一切使用していません。今回、ギャラリーのために提供していただきました。



通所支援(通園)の方の作品

材料にペットボトル、トイレトペーパーの芯、牛乳パックと空き箱を利用して作りました。みんなで、**ぶどう狩り**をして遊びました。



2病棟の子どもたちの作品

段ボールやトイレトペーパーの芯など廃材を使って、リスのお家を、子どもたちが作ってくれました。

階段や机、椅子などもあり、本格的な家となっています。リスの手には「**松ぼっくり**」が! **秋**が感じられますね…

